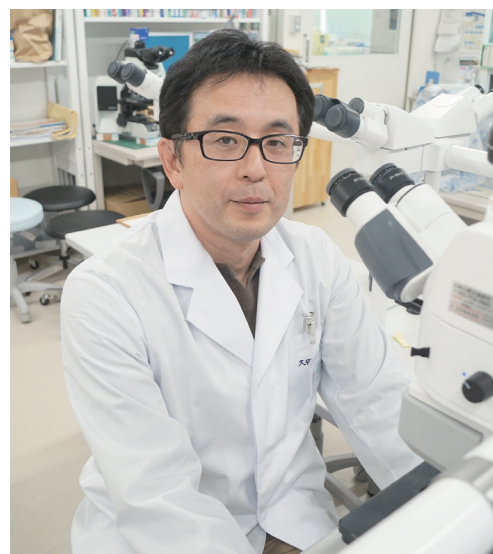


# 病理診断科 診療科長就任のご挨拶

病理診断科 診療科長 新野 大介



10月より病理診断科診療科長を拝命いたしました新野大介と申します。

病理診断科は大学病院の病理診断全般を担当する病理医が所属する科です。全ての臨床科からの病理診断、細胞診診断、術中迅速診断、病理解剖を行っています。病理解剖については、院内だけでなく外部施設から依頼された症例についても受託解剖として対応しています

当院は島根県の中核拠点病院であり、その中で病理診断科は病理診断という診療を通して、その役割を支えています。病理医は、院内では目立たないところもありますが、Doctor's Doctorといわれており診断、治療において重要な働きをしています。今後、病理医を多数育成し、当院病理診断科を日本一の病理診断科にしたいと思っております。

病理診断科の業務は、他の診療科・部門・センターとの連携で成り立っています。これからも病理診断科は丸となり患者さん中心の医療に貢献できるよう努力していく所存です。引き続きご指導のほどよろしくお願い致します。

お問い合わせ 病理診断科 外来 TEL:0853-20-2426

## 島根大学医学部における研修会・講演会・セミナー開催情報

2023年12月15日～2024年1月14日 対象者: 一般 一般市民 医療 医療関係者 本学 本学教職員・学生

開催日	開催名	場所(★印学外開催)	対象者	主催者
12/1(金)~2/29(木)	令和5年度 第3回肝臓病教室・家族支援講座	肝疾患相談・支援センター ホームページ上での動画配信	一般 医療	島根大学医学部附属病院 肝疾患相談・支援センター
12/15(金) 18:00~19:30	今さら聞けない、遺伝子検査・マイクロアレイの読み方講座(ハンズオンセミナー)	B病棟6階カンファレンスルーム ハイブリッド開催	医療 本学	島根大学医学部 臨床遺伝診療部
12/22(金) 17:45~18:45	遺伝性腫瘍・がんゲノム検査の結果説明後の患者さんご家族のお気持ちを考える	看護学科棟N11講義室 (オンライン配信)ハイブリッド形式	医療 本学	島根大学医学部附属病院 がんゲノム医療センター

詳細については、医学部・附属病院ホームページ【研修会・講演会・セミナー】をご覧ください。



# NEWS



CONTENTS

表紙: 精神医学講座 教授 稲垣 正俊

- 中表紙
- 裏表紙
- ・病院長補佐就任のご挨拶
- ・病理診断科 診療科長就任のご挨拶
- ・研修会・講演会・セミナー開催情報



# 病院長補佐就任のご挨拶

病院長補佐(研究・教育担当) ふじたに まさし  
藤谷 昌司

病院長補佐を拝命しました解剖学講座(神経科学)教授の藤谷と申します。医学部において、医師になるために必要不可欠な解剖学・組織学の教育を担当し、学生とともに解剖学実習を行っています。研究面では、自閉スペクトラム症、多発性硬化症、アンジェルマン症候群といった筋骨格系および神経系の難治性疾患の病態解明や、新たな治療法の開発に努めております。さらに、篤志献体団体の「有終会」の活動もサポートさせていただいております。

当院においても、CST(Cadaver Surgical Training)センターの副センター長としての役割も担い、外科系の先生方の手術手技研修に協力させていただいております。

今後病院長補佐として、椎名病院長や石原医学部長、鬼形副病院長(前医学部長)のもとで、医学部と当院の連携を深化させ、質の高い教育・研究の実現に向けて、全力を尽くすこととお約束いたします。

今後も、みなさまからの貴重なご支援やご指導を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。



問い合わせ先 解剖学講座(神経科学) 教授室 TEL:0853-20-2106

# 病院長補佐就任のご挨拶

病院長補佐(研究・教育担当) いちのせ くにひろ  
一瀬 邦弘

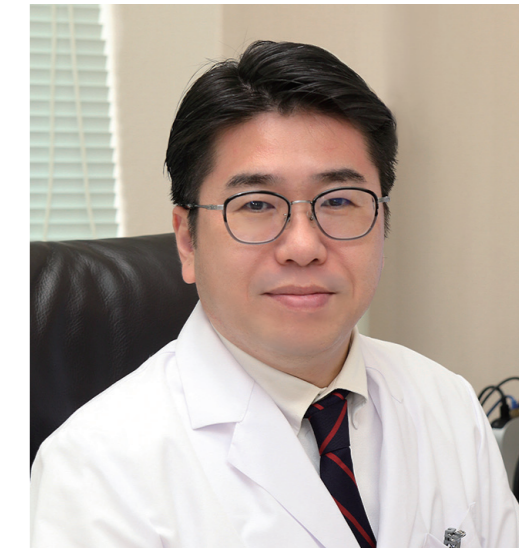
皆様、こんにちは。この度、2023年10月1日より、当院の病院長補佐(研究・教育担当)を拝命いたしました膠原病内科教授の一瀬邦弘と申します。この新しい役職を通じて、病院および地域医療に貢献できることを、心より感謝しております。

鳥根県では、医師の偏在化と医療過疎地への課題が長年指摘されています。私たちの病院は、これらの問題に対して、地道ながら確実な取り組みを進めていく必要があります。研究・教育担当としての立場から、地域に根差した医療人材の育成や、過疎地への医療サービス提供方法の改善に、少しずつでも貢献していければと考えています。

具体的には、地域医療に焦点を当てた教育プログラムの強化や、若手医師が地域医療の現場で力を発揮できるような支援体制の構築、テレメディシン(遠隔医療)や移動診療などの新しい医療技術を活用した取り組みなど、地道ながらも着実な進歩を目指していきます。

これらの目標に向けて、鳥根県内の医療機関や関連団体との協力が欠かせません。皆様と一緒に、少しずつでも前進していければと思います。

この新たな役割を通じて、当院、そして鳥根県の医療全体の発展に、微力ながらも貢献していければ幸いです。皆様のご支援、ご協力を心よりお願い申し上げます。



問い合わせ先 膠原病内科 事務室 TEL:0853-20-2196



# ご報告

島大病院ニュース 2023年12月



島根大学  
教育学部

## しまだいジュニアドクター育成塾

### 外科手技体験キッズセミナーを行いました!

消化器・総合外科 医員 瀬名波 英子  
教授 ひだか まさあき  
日高 匡章



9月30日(土)、島根大学医学部国際交流ラウンジで、外科手技体験キッズセミナーを行いました。ジュニアドクター育成塾は、科学技術振興機構(JST)の支援を受け2022年度から5年間、将来の科学技術イノベーションを牽引する傑出した人材の育成に向け、高い意欲や突出した能力を持つ小中学生を発掘しSTEAM(Science(科学)、Technology(技術)、Engineering(工学)、Art(芸術を含む社会科学全般)、Mathematics(数学))

学習などを通じてその能力を伸ばさせる体系的育成プログラムです。

今回のセミナーには小学6年生~中学3年生の計12名が参加し、当科の医局員から糸結び・縫合・手袋/手術ガウン装着のレクチャーを受けました。皆、手技の習得が早く、スタッフからも驚きの声がかれました。普段は病院実習の医学生に指導する機会の多い我々ですが、熱心で純粋な小中学生たちに刺激を受ける楽しい時間となりました。最後に全員に「ジュニアドクター免許証」を日高教授より授与し、セミナーを終了しました。帰り際の小中学生たちの達成感溢れる笑顔が印象的でした。今後も地域の皆さまと、様々な形で交流する機会を設けたいと考えています。

問合せ先 島根大学松江地区学部等事務部 TEL: 0852-32-6253



2023年12月 発行  
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会  
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当  
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063  
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



# お知らせ

島大病院ニュース 2023年12月

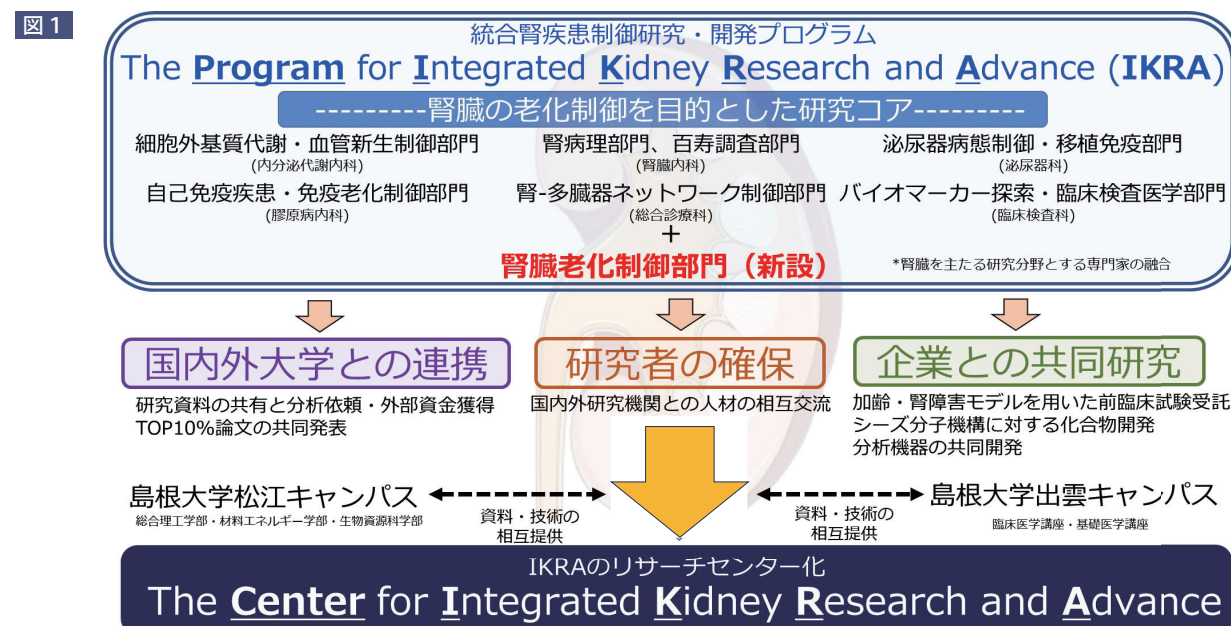
## 統合腎疾患制御研究・開発センター (IKRA) 始動します!

統合腎疾患制御研究・開発センター センター長 かなさき けいぞう  
金崎 啓造

現在、当院には、金崎啓造(内科学第一:内分泌代謝内科)、神田武志(腎臓内科)、一瀬邦弘(膠原病内科)、牧石徹也(総合診療科)、和田耕一郎(泌尿器科)、矢野彰三(臨床検査科)といった「腎臓病」を主たる研究分野とする6人の診療科長が所属しています。地方大学において、この様に「腎臓」という一つの研究領域に対して専門分野・診療科の異なる医学研究者が在籍するというのは極めて稀であり、特色を活かしたネットワークが軽い・垣根のない多面的な取り組みが実践できます。

この様な「腎臓研究」に対する強みを活かし、臨床・教育・研究の協力体制である「統合腎疾患制御研究・開発プログラム(The program for Integrated Kidney Research and Advance (IKRA))」を2023年度初旬よりキックオフし、今回、島根大学の「先鋭研究領域創出による学部改革」の一環としてIKRAをプログラムから他学部・他大学・企業との連携も積極的に推進するセンターへと機能強化しました(図1)。

腎臓を標的とする同規模のセンターは国内において極めて稀であり、今後、島根大学において世界をリードする先進的な腎臓研究を展開して行きます。また今回、世界中で問題となっている「腎臓の老化制御」を目的とした研究コアを発足し、実績ある研究代表者をさらに招請します。今後のIKRAの展開にぜひご期待ください。



問合せ先 内科学講座内科学第一 事務室 TEL: 0853-20-2183



2023年12月 発行  
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会  
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当  
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063  
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





# ご報告



# ご報告

## 脳分離送血および選択的冠動脈送血を併用した心拍動下大動脈再建術

小児心臓外科 講師 なかた ともひろ  
中田 朋宏

心内奇形を伴う大動脈縮窄(図1)や大動脈離断症における大動脈の再建は、①心停止下に行えば、血管組織に余裕があり、良好な視野は得られるものの、心臓には負担がかかり、②大動脈部分遮断/心拍動下に行くと、心臓の負担は少ないものの、吻合の際の血管組織の余裕が少なくなります。このため、我々は2020年より、通常の脳分離送血に加えて、選択的冠動脈送血を併用すること(図2)で、心拍動下に、かつ血管組織の余裕がある、良好な視野での大動脈再建を行っています(写真1)。

2023年9月末までに6例、生後7~86日(中央値10日)、体重は2.0~3.4kg(中央値2.6kg)のお子さん達に行い、同時手術は、心室中隔欠損パッチ閉鎖(4例)、肺動脈絞扼術(完全型房室中隔欠損症に対する姑息術)(1例)、動脈スイッチ手術(=ジャテーン手術)+心室内通路作成術(タウジッヒ・ビング奇形に対する一期的心内修復術)(1例)でした。患者さん達は全例軽快退院となり、吻合部狭窄や反回神経麻痺などの合併症はありませんでした。

人工心肺に少しの工夫が必要ですが、良好な視野で吻合でき、かつ心臓に負担の少ない本法は、大動脈縮窄症や離断症を合併した先天性心疾患の外科治療に有用と考えています。

我々は山陰唯一の小児心臓外科手術を実施する施設として、これからも先天性心疾患を持つ患者さんの外科治療に尽力いたします。

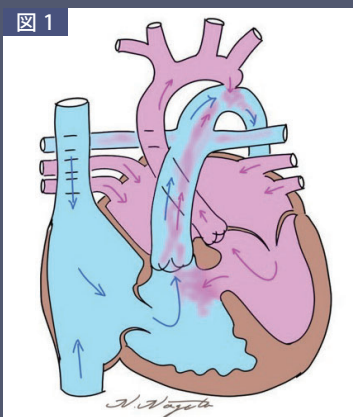


図1 大動脈縮窄症+心室中隔欠損症模式図

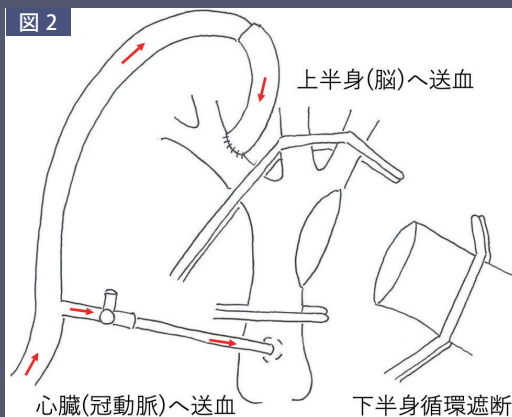


図2 心臓(冠動脈)へ送血 下半身循環遮断 選択的冠動脈送血を併用した大動脈再建



写真1 実際の手術風景

問合せ先 心臓血管外科 医局 TEL: 0853-20-2225

## 乳がん啓発 キャンペーン

## 出雲大社御本殿ピンクリボンライトアップ

乳腺センター 副センター長 かどや たかゆき  
角舎 学行

現在、日本女性の9人に1人が乳がんになると報告されています。その理由として、食の欧米化で初潮・閉経のタイミングが変わり、女性ホルモンの影響を受ける期間が長くなったためだと考えられています。しかし日本のがん検診受診率は依然として30%台で、先進国では最低レベルです。乳がんは早期発見さえできれば死亡率も高くなく、QOLを大きく損なうこともありません。

毎年10月になると、乳がん啓発を目的とするピンクリボン活動が全世界で展開されます。ピンクリボン活動とは、乳がんに関する正しい知識や早期受診の重要性などをより多くの人に広める活動です。

「ピンクリボン」の由来については、1980年代のアメリカで乳がんで娘を亡くした母親が、このような悲劇が繰り返されないようにと思いを込めてピンクリボンを作ったことが始まりとされています。今ではピンクリボンが乳がん啓発キャンペーンのシンボルとなり、各国で認知されるようになりました。日本でも10月には各地でセミナーやシンポジウムが行われ、国の代表的な建造物をピンクにライトアップすることもまた、大事な啓発活動の一つとなっています。

今年4月、当院に乳腺センターが設立され、島根県の乳がん診療が大きく飛躍する年になろうとしています。この良い機会に乳がんに対する啓発や早期受診の重要性を発信させていただきたいと考え、10月14日(土)に出雲大社御本殿のピンクリボンライトアップを行いました(写真1)。

乳腺センターのスタッフや乳がん患者さんにもお手伝いいただき、ライトアップの間、患者さんたちと乳がんについてお話する場も設けることができ、来年はもっとたくさんの人に参加してもらいたいと夢が膨らみました。乳腺センターとしてもみんなで達成した初めてのイベントでしたが、記念すべき第一歩になりました。今後とも引き続き乳腺センターにご支援を賜りますようお願い申し上げます。

写真1



問合せ先 乳腺センター TEL: 0853-20-2052





島大病院ニュース 2023年12月

# ご報告



島大病院ニュース 2023年12月

# ご報告

世界初

## 大学教育用薬理学実習VRソリューション 「BMP-VR」について

薬理学講座 教授 和田 孝一郎  
わだ こういちろう

薬理学は「薬」の作用を学ぶ学問であり、将来臨床現場での薬の適正使用にむけた基礎力を培うための科目です。そのため講義だけではなく動物を使った実習を行うことにより、薬の作用や有害反応を医学生に体験してもらうことが重要な学びの機会となります。ところが現在、動物実習を取り巻く環境が難しくなっています。動物愛護の観点からアメリカでは医学部・医学校での動物を使った実習が完全に廃止されています。これに加えて日本では、基礎系教員の不足や教育実習経費の削減により、動物実習を実施する大学が減少しています。



そこで動物を使わず薬の作用を再現できる「薬理学実習用バーチャルリアリティ (VR) ソリューション」を企業と共同で開発しました。医学生は 3D-VR ゴーグルを装着することにより実験動物への薬の投与や作用をリアルに体験することができます。さらに医学生は単に 3D 画像を体験するだけではなく、各自がそれぞれ異なった課題を与えられ、その課題を解決するために試行錯誤しながらシミュレーション実習を行います(写真1)。何度でも繰り返し実習ができ、失敗を恐れる必要もありません。むしろ失敗の経験こそ印象に残るとともに、そこから学ぶべきことは多いと思います。

本学ではすでに昨年6月から医学部3年生の薬理学実習に本ソリューションを導入しており、医学生の評価も良好です。また本ソリューションの有用性については昨年の日本薬理学会・臨床薬理学会合同総会でシンポジウム講演を行っており、本年10月2日からは商品として発売されています。

今後は薬理学だけでなく、様々な基礎科目の実習コンテンツを増やしていく予定となっています。ご興味のある方はご連絡いただければ嬉しい限りです。

問合せ先 学務課学生支援・総務担当 TEL : 0853-20-2088

問合せ先 薬理学講座 TEL : 0853-20-2133



活動紹介

## 小児科病棟にボードゲームを寄贈しました

島根大学医学部医学科5年 フェレータ代表 いながき かいり 稲垣 海里

私達、ボードゲームサークル「フェレータ」は、今年新しく創設された学生団体です。学生が主体となって出雲市内でボードゲームのお店「7th DICE」を運営する中で、学生間のみならず地域住民の方々とも広く交流を図っております。

今年の5月には活動の一環として、当院の小児科病棟にボードゲームを寄贈致しました。このボードゲームは四人将棋の製作者としても知られる太田満保元平田市長※が自作された作品で、古典的ゲームであるチェッカーを基に、お子様や高齢の方などが年齢問わず楽しめるように改良されたものです。

当日は入院している患者さんと、看護師の方も交えて一緒にボードゲームをしました。世代や役職を超えてプレイに興じる中で、初対面同士でありながらも自然と会話が弾んだり、思わず笑顔がこぼれる場面も多々あり、ボードゲームの魅力や可能性を再発見するよい機会にもなりました。

当団体ではボードゲームを活用して、認知症予防教室の開催や不登校児の支援活動なども行っております。今後とも学生が自ら課外活動に挑戦するきっかけとなる場を提供しつつ、地域社会や医療福祉に貢献して参ります！

※平田市は、2005年に出雲市と合併しました。



2023年12月 発行  
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会  
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当  
TEL : 0853-20-2068 FAX : 0853-20-2063

◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



2023年12月 発行  
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会  
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当  
TEL : 0853-20-2068 FAX : 0853-20-2063

◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





# お知らせ

## 最新のCT装置が稼働開始しました!

放射線部 部長・放射線科 科長  
放射線部 副部長  
放射線科 助教

かじ やすし  
楯 靖  
よしご たけし  
吉廻 毅  
まるやま みつなり  
丸山 光也

放射線部にある2台のCT装置のうち1台をGE Healthcare Japan社の最新の機種(Revolution Apex Elite)に更新し、9月末より稼働を開始しました。近年、著しく進歩したAI(人工知能)技術を取り入れており、西日本では第1号機となります。

天井には癒し効果のある疑似天窓と、AIカメラを設置しています(写真1)。AIカメラは患者さんの位置を自動認識し、体格や撮影範囲に合わせて撮影条件を自動設定します。これにより、診療放射線技師はすぐに撮影を開始できます。

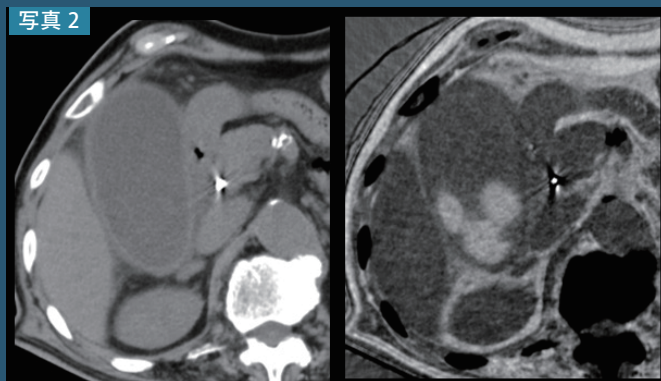
今回のCT装置の特徴のうち、(1)高精度Dual energy解析、(2)高性能ガーネット検出器、(3)Deep learningを用いた画像再構成を紹介します。

(1)は、特殊な仕組みで2種類の엑스線を作りだし、ある物質に照射したときの減弱の程度の差からどのような物質か解析するもので、その成分を強調できます。ヨード造影剤のヨード成分を強調したり、コレステロール結石を目立たせる脂肪密度画像を作ったりすることができます(写真2)。(2)の検出器の性能が向上したことで、従来の2.5倍のデータを得ることができ、細かな画像を作ることができます。(3)の例として、低線量で撮影した低画質の画像をAIで処理することにより、高画質の画像を作り出すことが可能で、患者さんの被ばく低減に役立ちます(写真3)。

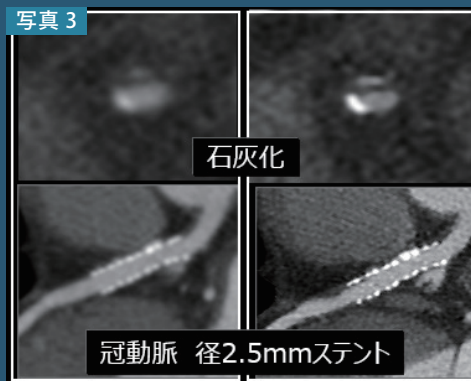
現在、患者さんの負担を減らしながら適切な情報を抽出するための試行を繰り返しています。島根県民の皆様によりよい画像診断を提供できるよう、放射線科・放射線部スタッフ一同取り組んでまいります。



疑似天窓とAIカメラ(矢印)



コレステロール結石(左:通常CT像、右:脂肪密度画像)  
写真提供:GE Healthcare Japan社



冠動脈の高解像度画像(左:通常CT像、右:高解像度画像)  
写真提供:GE Healthcare Japan社

問合せ先 放射線科 外来 TEL:0853-20-2392



# ご報告

## 看護職のユニフォームが新しくなりました

看護部長 かわかみ としえ  
川上 利枝

島根大学においても持続可能な開発目標(SDGs)の取り組みが行われています。17の国際目標のうち、「5 ジェンダー平等を実現しよう」「17 パートナーシップで目標を達成しよう」の活動として、田中前看護部長の発案で、ユニフォームの更新時期に合わせて2023年4月1日から男女兼用ユニフォームを運用することとなりました。



ジェンダー対応及び機能的で着心地が良く、患者さんへ安心感の与えることができるユニフォームの更新を目標としました。新しいユニフォームを決定する過程は全看護職員参加型で行い、全看護職員が更新候補のユニフォームを実際に見て、触って、試着できるように、全部署で回覧しました。その後、スタッフの意見を集約し、素材やデザイン等を考慮し希望の多かったユニフォームに最終決定しました(写真1・2)。

スタッフからは、「軽くて、柔らかく動きやすい」、他職種からも「かっこいい」など好評です。

ユニフォームの心理社会的機能として、統一性、連帯化があります。ユニフォーム選定過程から全看護職員が関わったことで、更に仲間意識が強化されたものと思います。共に協力し合いながら看護部の理念である「地域に信頼される質の高い看護の提供」に邁進いたします。

問合せ先 看護管理室 TEL:0853-20-2478





島大病院ニュース 2023年12月

# ご報告



2023年度島根県がん診療連携拠点病院「がん看護研修」

## がん薬物療法看護研修を開催しました ～事例から学ぼう！実践に活かすケアの基本～

緩和ケアセンター 看護師長 藤井 愛子

島根県内の看護師を対象に10月14日(土)、第2回がん薬物療法看護研修をオンラインで開催致しました(写真1)。島根県各病院、各施設から19名の参加がありました。

島根県内のがん専門看護師、がん化学療法看護認定看護師、がん薬物療法看護認定看護師、がん放射線療法看護認定看護師を講師とし、「がん薬物療法概論」「皮膚障害とケア」「末梢神経障害とケア」「事例検討・グループワーク」の構成で行いました。参加者からは「抗癌剤の副作用である爪障害、手足症候群(HFS)、色素沈着は隠すことが難しく、患者さんが日常生活に支障をきたすことがある。講義では、とても具体的にスキンケアのポイント、予防や看護ケアを学んだので、今後のケアに活かしていきたい」「事例検討を通し、多角的に患者さんを捉えること、患者さんと家族が持っている力を支え、時には引き出すことが看護師として大切だと学ぶ事ができた」などの感想がありました。

当院は、島根県のがん診療連携拠点病院の役割を担っております。第4期がん対策推進基本計画の全体目標として「誰一人取り残さないがん対策を推進し、すべての国民とがんの克服を目指す」とあります。がん薬物療法を受ける患者さんそれぞれの視点を大切にケアや看護を考えていく事により「その人らしく生きる事」につながります。今後も島根県がん診療連携拠点病院として、がん看護の質の向上に努めるようがん看護研修の企画運営に取り組んでまいります。引き続きご支援のほどよろしくお願い致します。

問合せ先 緩和ケアセンター TEL: 0853-20-2441



2023年12月発行  
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会  
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当  
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063  
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



島大病院ニュース 2023年12月

# ご報告



写真1 認知症に関する相談対応 写真2 パンフレットを用いて認知症について説明 写真3 認知症に関するパンフレットを配布しました

## さくらおろち湖祭りで『まちの保健室』に参加しました

老人看護専門看護師 藤江 さとみ  
認知症看護認定看護師 飯島 可奈子

島根県リソースナース会は、県内の認定看護師・専門看護師で構成され、地域のイベントで健康相談を行うなどの地域貢献活動を行っています。

今回、島根県看護協会雲南支部よりご依頼をいただき、10月15日(日)に雲南市木次町で開催された、さくらおろち湖祭りの『まちの保健室』で、もの忘れや認知症に関する相談対応をしました(写真1)。

『まちの保健室』に立ち寄って下さった方からは、「健康に気をつけて脳ドックを受けた」「最近もの忘れが気になっている」「認知症にならないように気をつけている」などの声が聞かれました。現在の困りごとをお聞きし、パンフレットに記載されているもの忘れチェックを一緒にしたり、認知症についての説明をさせていただきました(写真2・3)。相談後もパンフレットを熱心に読んでいらっしゃる方も多く、認知症への関心の高さが窺えました。

地域では様々な高齢者の方への支援策があるため、お一人おひとりに応じた情報提供や、認知症になっても安心して暮らせる街づくり「認知症バリアフリー」への啓発活動を推進していくことも私たちの役割であると感じています。

今後も専門知識を活かし、地域の方々の健康に役立つ活動をしていきたいと思っています。

問合せ先 看護管理室 TEL: 0853-20-2478



2023年12月発行  
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会  
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当  
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063  
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





# ご報告

島大病院ニュース 2023年12月



# ご報告

島大病院ニュース 2023年12月



活動紹介

4年ぶり

## 第48回「くえびご祭」が開催されました！

島根大学医学部医学科3年 第48回くえびご祭実行委員長 たじま とおる 田島 透

医学部の大学祭「くえびご祭」が10月21日(土)・22日(日)の2日間、学生による実行委員会の主催で開催されました。

今回のくえびご祭では、ゲストとしてお迎えしたアーティストの「DNA GAINZ」、「ネクライトーキー」のライブ、お笑い芸人の「パンクブーブー」、「鬼越トマホーク」、「しゅんしゅんクリニックP」、「どんちっち」、「マユリカ」のお笑いライブが野外ステージにて開催されました。学生による模擬店や各部活動の活動成果発表等、盛りだくさんのイベントが企画され、延べ7,110人の方にご来場いただきました。

コロナ禍の影響で4年ぶりの開催となりましたが、無事、盛況のうちに終了することができました。これも、お力添えいただいた地域住民の皆様、学校関係者、学生の皆さんのおかげです。ご協力いただきありがとうございました。

来年度以降も安全に配慮し、くえびご祭をより良いものにできるよう尽力いたします。

問合せ先 学務課学生支援・総務担当 TEL:0853-20-2088



2023年12月 発行  
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会  
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当  
TEL:0853-20-2068 FAX:0853-20-2063

◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



## 小児病棟ハロウィン回診

小児科 チャイルドライフスペシャリスト くろさき 黒崎 あかね

今年の小児病棟のハロウィン回診は、コロナ禍前のような大盛り上がりで、子どもたちとご家族の笑顔にあふれていました。白衣やスクラブを着ている小児科の医師たちが、いつもとは違ってハロウィンの仮装をして病室を回りました。

自らも仮装をして医師を待ち構える子どもたちや、仮装の中身は誰かを当てたりと、保護者さん同士も笑いながらお話しされていました。

いつもは、医療スタッフを見ると泣き出す子が、仮装している医師には興味津々で嫌がることなくお菓子をもらっていました。5歳の女の子は、「先生はねずこでかわかった。竹谷先生はいなかったね?!また明日もハロウィンしたい」と、笑顔でおしゃべりしてくれました。付き添いのお母さんは、「先生が何を着てくるのかすごく楽しみ。一緒に写真撮ってくれるかな」と、わくわくしておられました。

小児病棟のハロウィン回診は、ただの仮装大会ではありません。病院環境にいる子どもたちが、主体性を取り戻し、日常を創造したり、医療スタッフとの良好な関係を築くことにもつながっています。これからも治療をしている子どもたちが一緒に参加できるイベントを企画しています。ご協力いただいた皆様ありがとうございます。



問合せ先 小児センター TEL:0853-20-2616



2023年12月 発行  
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会  
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当  
TEL:0853-20-2068 FAX:0853-20-2063

◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>

